

step up

KISC

Kagoshima Industry Support Center

troublesome

Origin

mistake

light

stand

revolve

CONTENTS

SUC

- 02 年頭のごあいさつ 鹿児島県商工労働部長
- 03 鹿児島県から新たに3件 農商工連携の支援決定
- 04 アグリクラスターファンド 投資第1号決定
- 05 食&アグリ・マッチングフェア2008
- 06 特集 応援します！中小企業の経営革新！
- 08 ベンチャーブラザコーナー⑤ 特殊FRP製商品の販路拡大を求めて
- 09 産学官連携⑥ 液晶材料及びその製造方法
- 10 マーケティングの現場から⑤ チェック・ポイントと処方箋：それでも本当に必要なもの
- 11 女性起業家の声：塾との出会いそして自分づくり
- 12 IT活用戦略：情報は整理してはいけない
- 14 食の安心・安全の確保について（第4回）：
「かごしまのさかな」ブランド認定（鹿児島県水産振興課）
- 15 受発注情報
- 16 鹿児島県人材育成センターの利用の御案内
「かごしま企業情報」への掲載の御案内
メール配信サービス「KISCNEWS」の御案内

創業や経営革新に
取り組むあなたを応援します。

confront

again

1月号

reconcile

January 2009

advance

(財)かごしま産業支援センター
URL <http://www.kric.or.jp/>



鹿児島県商工労働部長

六 反 省 一

平成21年の新春を迎え、謹んで新年のお喜びを申し上げます。

中小企業等の皆様には、かねてから県政の推進につきまして格別の御理解、御協力を賜りますとともに、本県の商工業の振興に大きく貢献していただいていることに対し、深く感謝申し上げます。

さて、我が国の経済は、2002年以降、息の長い景気回復が続いておりましたが、昨年夏の原油・原材料価格の高騰、最近の世界的な金融経済情勢の悪化が、我が国の実態経済に影響を及ぼし、景気が悪化するなど、将来に向けて不透明感を増しております。

県内の景気についても、雇用情勢をはじめ厳しい状況にありますが、昨年はNHK大河ドラマ「篤姫」放映の効果や「ねんりんピック鹿児島2008」の開催により多くの方に鹿児島にお越しいただきました。

このような中で県においては、「産業おこしへの挑戦」として、重点業種の振興や地域特性を活かした新たな産業の創出などに積極的に取り組んでいるところであり、昨年は、(財)かごしま産業支援センターと連携を図り、自動車・電子・食品関連分野及び地域資源活用分野に係る新事業創出の取り組みを支援していくため、「かごしま産業おこし挑戦基金」を新たに設置し、中核的企業を目指す中小企業等に対し、支援を行うこととしました。

また、中小企業等の皆様が、急激な経済状況の変化による厳しい経営環境に対応していくための金融上の支援制度も新たに設け、活用していただいているところでもあります。

(財)かごしま産業支援センターにおいては、昨年からの地域資源の活用や農商工連携を推進するため「地域力連携拠点」事業に取り組まれ、昨年中に地域資源で5件、農商工連携で4件の事業計画が認定を受けるなど、着実に成果を挙げておられます。

県といたしましては、今後とも(財)かごしま産業支援センターと密接な連携を図りながら、技術面、資金面、経営面から総合的な支援を行うことにより、活力ある中小企業等の育成に努めてまいりますので、同センターの積極的な御活用をお願い申し上げます。

年頭にあたり、皆様の御発展・御健勝を心からお祈りいたします。

鹿児島県から新たに3件 農商工連携の支援決定

九州農政局及び九州経済産業局は、中小企業者等から申請された「農商工等連携事業計画」について、平成20年12月9日付けで鹿児島県から新たに3件の認定を行いました。

これは、平成20年7月21日に施行された「中小企業者と農林漁業者との連携による事業活動の促進に関する法律（農商工等連携促進法）」（平成20年法律第38号）第4条の規定に基づき、農林水産省と経済産業省が一体となって、中小企業者と農林漁業者のつながりを応援し、それぞれの強みを十二分に発揮した事業活動を支援することを目的としたものです。

かごしま黒豚と有機農法で生産した「有畜農産物」の販路開拓

中小企業者：有限会社 霧島高原ロイヤルポーク
農林漁業者：農事組合法人 霧島高原純粋黒豚牧場
中崎養豚

有機農法にこだわった良質なサツマイモを与えてかごしま黒豚の品質向上を図るとともに、これまで培ってきた安心・安全・美味で信頼される食品づくりのネットワークを生かして、かごしま黒豚と有機農法で生産した農産物の販路開拓を実施。



＜商品のイメージ＞

飼料自給率向上に向けた

「耕畜連携・地域循環型の粗飼料生産・供給システム」の開発

中小企業者：農業生産法人 有限会社坂上芝園
農林漁業者：西田 義博

コーンサイレージの品質改良や、粗飼料供給のための新しい「粗飼料生産・供給システム」を開発するとともに、畜産農家の高齢化に対応したコーンサイレージのロールの小型化、畜産農家が処理に困っている堆肥の地域内還元等の取組を実施。



＜コーンサイレージのロール＞

奄美大島の地域資源（パッションフルーツとたんかん）

を活用した食前酒の製造と販路開拓

中小企業者：株式会社 奄美大島開運酒造
農林漁業者：株式会社 奄美大島宇検農産

黒糖焼酎の製造技術を活かし、奄美大島の地域資源（パッションフルーツとたんかん）を活用した食前酒（リキュール）の製造販売を計画。



＜商品のイメージ＞

農商工等連携促進法施行後初めての認定が9月19日付けで行われ、鹿児島県から2件認定されています。

「農商工等連携事業計画」で「廃鶏等の非食材を利用した高機能餌料基材の事業化」（中小企業者：農事組合法人エヌチキン、農林漁業者：農事組合法人協和）が認定され、「農商工等連携支援事業計画」では「社団法人鹿児島県工業倶楽部」が認定されています。

「農商工等連携事業計画」による認定事業者は、専門家によるアドバイス、試作品開発、販路開拓に対する補助、設備投資減税、中小企業信用保険法の特例、政府系金融機関の低利融資等による支援を受けることができます。

優秀地域力連携拠点に選ばれました

（財）かごしま産業支援センターでは、法律認定を目指す中小企業者と農林漁業者の取組を支援しています。

中小企業庁が、地域力連携拠点に関して行った調査結果により、（財）かごしま産業支援センターは、九州の優秀地域力連携拠点9か所の一つに選ばれ、12月3日、九州経済産業局長表彰を受けました。

鹿児島銀行等が推進する

アグリクラスターファンド

第1号に有田農産有限会社



＜大規模な有田農産有限会社
の大根農場＞

また、青果の仕入においては、県内の同業者をはじめ、東北地方のＪＡ等と連携を行うなど、県内外を問わず積極的な連携により、１年を通じて安定的な商品供給体制を構築しています。

今般、有田農産有限会社が新規事業展開の一環として実施する集選果・加工場について、『商品の安定供給実現・品質均等化（高品質化）・高付加価値化（ブランド化）』が図れる等、業績・認知度への貢献度合いが非常に大きいものであること、新たな地域住民の雇用創出や担い手不足・高齢化により生じている耕作放棄地・遊休農地の有効活用に繋がる等、地域活性化にも直結するため、社会性を鑑みても意義深いものであることが当該ファンドの支援対象に合致するものとして、投資が決定されました。

アグリクラスターファンドの第１号投資先に、有田農産有限会社が決定しました。

有田農産有限会社は、平成１３年に農業生産法人として設立されて以来、大根を主体とした機械化一貫作業体系を確立し、年間の作付面積が約１２６haにも及ぶ露地野菜経営を展開してきました。

平成１７年には有機ＪＡＳ認定および有機加工食品認定、かごしまの農林水産物認証取得、平成１８年には全国農業コンクール全国大会で優秀賞を受賞するなど、その商品力は全国的に高く評価されています。

＜投資内容＞

投資種類：社債投資

投資総額：２００百万円

投資実行日：平成２０年１１月２８日

投資回収期間：７年

資金使途：新規事業展開に必要な資金
（集選果・加工場新設等）

＜投資先概要＞

会社名：有田農産有限会社（農業生産法人）

所在地：曾於郡大崎町仮宿３４５９

代表者：代表取締役 有田 通文

事業内容：青果（主に大根）の生産
及び仕入販売

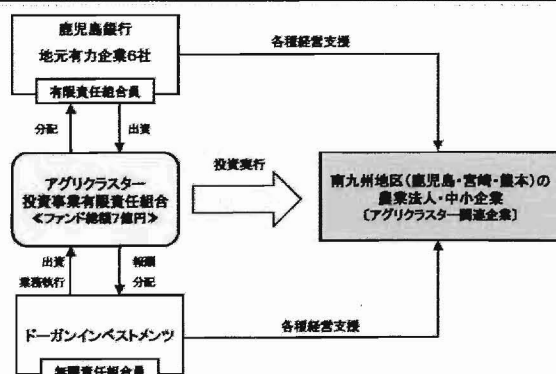
設立：平成１３年８月２８日

資本金：１０百万円

* 「アグリクラスター投資事業有限責任組合」（愛称：アグリクラスターファンド）とは

㈱鹿児島銀行が推進している『アグリクラスター構想』の一環として、㈱ドーガン・インベストメンツが運営会社となり、㈱鹿児島銀行のほか、鹿児島県下の有力企業６社（小正醸造㈱、坂元醸造㈱、薩摩酒造㈱、㈱新日本科学、㈱タイヨー、㈱南九州ファミリーマート）【５０音順】の出資により平成２０年８月２５日に設立されたファンドです。

アグリクラスターファンドのスキーム



鹿児島銀行

そうしん 食 & アグリ・マツチングフェア 2008

鹿児島相互信用金庫が主催する「そうしん食&アグリマツチングフェア2008」が12月4日、中国、台湾、ロシアの海外バイヤーを含む1500人のバイヤーなど4000人の来場者を集め盛大に開催されました。



信用金庫

12月21日

信用金庫

＜鹿児島相互信用金庫

理事長 秋葉 重貴 氏＞

このフェアは、「かごしまの食と農水産の未来へのかけはしを担う」のテーマのもと、国内第2位の農業生産県である鹿児島県農業の振興の一助を担うため、また、安心・安全な食材を提供する生産業者及び食品加工業者と販売業者のマッチングと情報交換を通じ、生産業者の販路開拓を支援することを目的としており、県内では過去最大規模の食に関するビジネスフェアとなりました。

会場には食・農水産関係104社が出展、鹿児島県など自治体、鹿児島大学、また(財)かごしま産業支援センターなどの支援機関9団体もブースを出展しました。

フリー商談会では、ブースが「調理食品・惣菜・麺類」「水産物・水産加工品」「焼酎・飲料・茶」「畜産物・食肉加工品」「健康・自然食品」「菓子・デザート」「農産物・農産加工品」「地域団体」「地方ローカル線・駅弁」の8ゾーンに区分され、地元仕入業者や一般来場者に混じり東京、大阪、福岡など県外の百貨店、大手食品商社等のバイヤーや、中には遠く札幌から参加したバイヤーもいました。

ブースでの商談会も活発で、商品を見て地元の業者数社と取引が決まった出展者もありました。

個別商談会では、希望した出展者75社が参加し、バイヤーには、首都圏を中心に大阪、福岡等の県外から23人、地元からは山形屋など9人のバイヤーが参加し約300件の個別商談が行われました。

この個別商談で、その場での取引開始が9件約定し、さらに商談継続が140件となるなど、大手バイヤーとは初めて商談を行った出展者が多く、期待していた以上の成果が得られたようです。



＜フリー商談会の様子＞

このほか、食に関する講演会やかごしまの逸品コンテストなどが行われました。

かごしまの逸品コンテストでは、各出展者から97点の商品が「わが社の逸品」としてエントリーされ、来場したバイヤーや一般来場者が「デザイン性」、「安全・安心性」、「味覚」などを総合的に判断し、審査・投票の結果、5社の逸品が選定され、フェア終了時に表彰されました。

＜かごしまの逸品コンテストで選ばれた「かごしまの逸品 '08」＞

《出展者》	《商品名》
医療法人 九十九会	せんできびなご寿司
赤鷄農業協同組合	赤鷄生ハム
(有) 第一佐多果樹園	冷凍アップルマンゴー
新洋水産 (有)	まぐろ鰻
志布志漁業協同組合	はもの天ぷら

応援します！中小企業の経営革新！

～ 経営者のための経営革新支援制度活用術 ～

- 当センター及び県では、事業者が新たな事業活動を通じて経営の向上を図る取り組みを支援しています。
- このシリーズでは、「中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律（中小企業新事業活動促進法）」に基づく経営革新計画を作成、県の承認を受けて支援策を活用し、新事業に取り組んでいる事例を紹介します。

有限会社串木野自動車教習所



代表取締役 播磨 誠 氏

【事例紹介】

『心・技能・知識を有する 即戦力の“人財”育成を』

< 企業概要 >

所在地：いちき串木野市西塩田町63-2
設立：昭和35年5月
資本金：3,000千円
従業員数：30名
業種：他に分類されない教育、学習支援事業
TEL：0996-32-9222
URL：<http://www.kushikino.co.jp/>
計画承認：平成19年5月21日

「自動車教習所と言いますと、免許付与機関というイメージが強いですが、現場で働く私たちの真の目的は、教育訓練にあります。よって、それに対応したカリキュラムを整備し、地域経済ならびに企業活動に貢献できる“人財”を育てることは私たちの社会的使命です。」と語るのは、いちき串木野市にある(有)串木野自動車教習所の播磨代表取締役。

今回は、「産業用車両に係る実践的訓練事業の展開」で経営革新計画の承認を受け、その後、県内自動車学校では初めてフォークリフト・クレーン等の運転資格が取得できる鹿児島労働局の登録教習機関となった同社の取り組みを紹介します。

少子化による入校生の減 産業用車両の教習を新設し、経営を革新

物流、流通、建築現場など多方面で使用されているフォークリフトは労働安全衛生法で定められた資格がなければ操作出来ません。しかし、県内の既存登録機関が行う講習は月に数回程度しかなく、無資格操作による現場での事故などが懸念される状況でした。一方で、私たちの教習所があります串木野もその一つですが、本県には港湾など物流拠点となる地域が数多く存在し、フォークリフトは産業活動において欠かせないものとなっています。そこで、産業用車両の教習訓練が、少子化により入校生の減少が続いていた当社の経営の向上と、産業界への貢献の両方に有益になると考え、この事業に取り組むこととしました。



< 串木野自動車教習所 >



< 産業用車両の教習コース >



< 教習用フォークリフト車 >

同業他社に先んじた事業展開

当該事業は登録許認可事業であるため、同業他社より先行することと、教習カリキュラムの早期構築が必須であると判断していました。

そこで、直接県庁へ出向き、経営革新計画の策定と承認申請を行いました。

当該事業を始めるにあたって、産業用車両コースを新設するなど設備投資が必要でしたが、経営革新計画の承認を受けたことで政府系金融機関の低利融資を活用することができました。

県内各地の教習機関と連動した経営戦略

経営革新計画の承認後も産業界の要求に応えられる教習カリキュラムを構築してきましたが、今後はそれを県内各地で展開していきたいと考えています。

既に志布志自動車学校と提携し、当社の指導員を派遣するなど、当該事業のノウハウを提供しています。中核国際港湾を持ち、大隅半島のみならず南九州の物流拠点でもある志布志の同業者と、薩摩半島に拠点を置く当社が提携することは、事業展開において大変意義があると考えています。

将来は離島にもこのような取り組みを広げ、県全土の産業活動に貢献していきます。

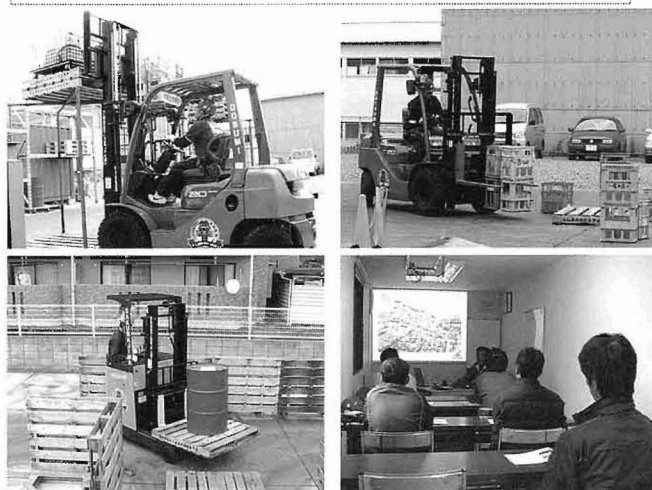
“人財”育成とコンプライアンス

当社では、新規資格取得者のみならず、既取得者への技量維持訓練・安全就労意識訓練のためのカリキュラムも提供しており、事業開始後200名以上の受講修了者を輩出しています。既取得者も対象としているのは、当該教習が“人財”の育成とともに、それぞれの企業におけるコンプライアンス（法令遵守）と生産活動を充実させるための労働安全衛生訓練でなければならないという事業理念にあります。

昨今は厳しい経済・雇用環境にあり、コンプライアンスの逸脱事案が社会問題化しておりますが、それを未然に防ぐ労働安全衛生の確保と、高度な技能“人財”を生み出すための環境整備に努めています。

＜これまでの主な取り組み＞

- H 19. 5月 経営革新計画承認
- 6月 鹿児島労働局よりフォークリフト運転技能講習機関として承認を受ける
- 県内自動車学校で初の鹿児島労働局の登録教習機関となる
- H 20. 2月 鹿児島労働局より小型移動式クレーン技能講習機関として承認を受ける
- 8月 厚生労働省より教育訓練給付金教育訓練校としての指定を受ける



＜教習の様子＞

■経営革新支援制度のご案内■

中小企業新事業活動促進法に基づき、中小企業者（個人事業者、組合等を含む、業種不問）が新たな事業活動の内容や経営目標等を盛り込んだ3～5年の「経営革新計画」を作成し、県知事の承認を受けると、各種支援策を活用できます。

【経営革新計画の承認基準】

- ①新商品の開発又は生産、新役務の開発又は提供など新たな取り組みであること。
- ②付加価値額と経常利益の数値目標（直近決算の数値に対する目標伸び率）が次のとおりであること。

経営指標 \ 計画年数	3年	4年	5年
付加価値額（営業利益＋人件費＋減価償却費）	9％以上	12％以上	15％以上
経常利益（営業利益－営業外費用）	3％以上	4％以上	5％以上

【支援策の内容】

- ①政府系金融機関による低利融資 ②税制措置 ③信用保証の特例 ④特許関係料金の減免
- ⑤補助金 ⑥県制度融資資金による融資（ベンチャー企業支援資金） など

【問い合わせ先】 県庁経営金融課 経営支援係

T E L : 099-286-2944（直通）、F A X : 099-286-5576、E-mail : shien@pref.kagoshima.lg.jp

ベンチャープラザコーナー ⑤⑤

第39回 ベンチャープラザ鹿児島(二水会)

株式会社 V. I. T. JAPAN

代表取締役 上窪 道代

鹿屋市田崎町2185-8

TEL: 0994-43-8778 FAX: 0994-43-8688

E-mail: vitjapan@po5.synapse.ne.jp

http://www2.synapse.ne.jp/vit-japan/

【ベンチャープラザ鹿児島(二水会)】



(ベンチャープラザで発表する上窪社長)

【特殊FRP製商品の販路拡大を求めて】

発表内容

<企業紹介>

弊社は、金型製造業から出発し、FRP製品の設計及び製造を手掛けています。商社売りしか行っていなかった自社製品を、昨年より鹿児島にて個別販売活動も開始しました。

<商品開発のきっかけ>

阪神淡路大震災の際、倒壊家屋に頭の重い和瓦の家が多い事を目にし、頭＝屋根を軽くすれば倒壊の危険を軽減できるのではと考えた関西の企業様に相談を受け、軽い・強い瓦を求めて開発に取り掛かり、完成した製品が軽量特殊防災瓦「アイルーフ」でした。

屋根の開発を皮切りにFRPへの知識を深め、その後の住宅用基礎残存型枠「アイベース」、大型プランター・高設栽培用「アイベースガーデン」等につながっていきました。

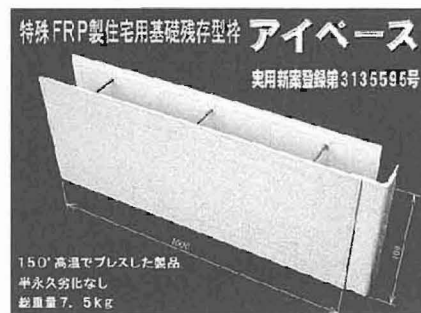
<商品の目的・特徴>

弊社の製品はFRPの中でもSMCやBMCと呼ばれる材料を使用し、150度の高温で数百トンの荷重をかけ、圧縮プレス加工で製造を行い手入れの要らない、軽い・強い・経年劣化を起こさない製品に仕上がっています。

軽量特殊防災瓦「アイルーフ」は、屋根を軽くする事によって地震や台風から家を守ります。問題のアスベストが使用されている石綿スレートの屋根材などの場合は、解体せずにその上に被せるカバー工法としても使用頂ける製品です。



【アイルーフ】



【アイベース】

住宅用基礎残存型枠「アイベース」は、今まで選択肢の無かった住宅の基礎に美的選択肢を取り入れ、その上、施工的にも環境的にも優れた製品に仕上げました。

花壇一体型ブロック「アイベースフラワー」は、狭い敷地を有効に利用できるように境界ブロックと花壇を一体化させた製品です。

大型プランター「アイベースガーデン」は、ほんの数分で劣化し廃棄処分となるプランターと違い劣化を起こさないからこそ出来た大型プランターで、置くだけで家庭菜園も楽しむ事が出来るサイズをそろえました。屋上菜園などに最適な製品です。

高設栽培用「アイベースガーデン」は、既存のイチゴの高設栽培と違い土を大量に使用する事によって味・収穫の一定化を図れる製品です。

この他、色々な展開を図れる製品の数々だと自負しています。

発表後の成果・感想

この度は、発表の機会をいただき誠にありがとうございました。何分不慣れでとても十分とは言えない製品説明になってしまいましたが、発表後皆様からの御意見をいただき、今後につなげていきたいと更なる決心をしました。

今後の展望

設立以来、商社にだけ販売していましたが、昨年より営業部門を開設し自社販売を始めました。

全国展開はもとより、今後は地元根付いた販売活動も行っていきたいと思っています。それに伴い販路拡大に御協力いただけるパートナー及び協力施工業者様を募集しています。

よろしくお願いします。

産学官連携 ⑥3

株式会社鹿児島TLO

吹 留 博 実

TEL : 099-284-1631 / FAX : 099-284-1632

鹿児島TLOから大学発発明の御紹介

鹿児島TLOでは鹿児島大学・鹿児島高専・鹿児島体育大学の研究者のシーズを企業の皆さまに活用していただくために、研究者に代わって権利化したり、大学の機関帰属となったシーズを権利移転する活動を行ったりしております。今回は鹿児島大学が出願し、鹿児島TLOが移転活動を行っている下記発明を御紹介いたします。

【発明の名称】 液晶材料及びその製造方法

【発明者】 鹿児島大学工学部教員

【出願番号】 特願2005-86728

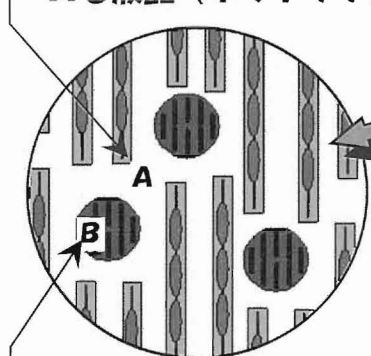
【出願日】 平成17年3月24日

【発明の概要】 従来のミクロ相分離は液晶分子と非液晶分子の混合系で造られ、液晶の中に液体や固体、または高分子が層状に分布するのが一般的であった。本発明では、ビフェニル誘導体の液晶オリゴマーの中に脂肪族化合物や脂肪族炭化水素を加えるとミクロ相分離液晶を作ることを見出したことにより、従来困難とされてきた“液晶の中に液晶がミクロ相分離を瞬時に造ること”を実現させた。

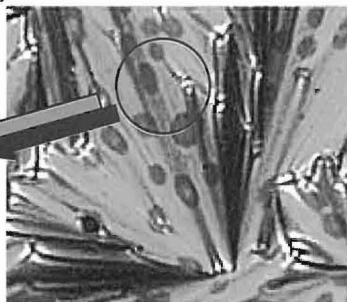
【図による解説】

液晶相の中に別の液晶相を持つということは、2つの異なった液晶相への電氣的制御が個々に可能となり、また、2つの異なった液晶相で光学的性質が異なるためナノ・ミクロスケールのレンズや光学的モジュレーター等への応用が期待できる！

Aも液晶（ネマチック）



Bも液晶
(ネマチックorスメクチック)



本発明で使用された液晶オリゴマーは、発明者が「特開2004-75623 ビフェニル誘導体オリゴマーおよび液晶」で公開済の新規ビフェニルオリゴマーである。

ここで【B】にあたる脂肪族化合物(PEO)や脂肪族炭化水素には本来、液晶性はない。それにもかかわらず、当該液晶オリゴマー中ではその性質を示した。

鹿児島大学との共同研究の相手先募集
(液晶デバイスメーカーなど)

☆研究テーマ☆ビフェニル誘導体オリゴマー液晶の実用化研究

御興味のある方は下記までお問合せください。

株式会社鹿児島TLO 【<http://www.ktlo.co.jp/>】

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-40 鹿児島大学産学連携推進機構棟1階

TEL 099-284-1631 FAX 099-284-1632 E-Mail info@ktlo.co.jp

担当 吹留（技術移転マネージャー）、平川（特許流通アドバイザー）

脇岡（技術移転スペシャリスト）、町田（技術移転スペシャリスト）、米満（NEDOフェロー）

マーケティングの現場から ～チェック・ポイントと処方箋～

STUDIO K. 代表 中島 秋津子

【Email】 info@studiok.biz

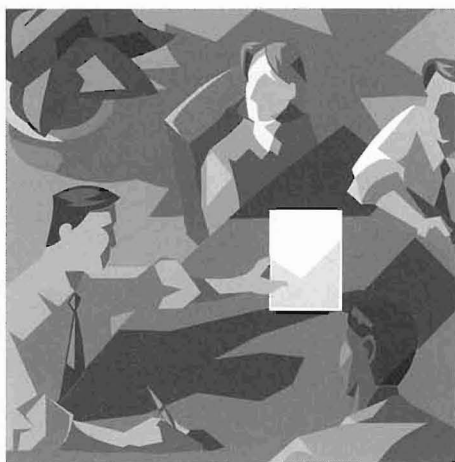
【Blog】 http://www.studiok.biz/

それでも本当に必要なもの

◆2009年のマーケティング・スタンス

前号では、2009年の構想を考えるにあたり、社内にあるマーケティングの記録を集め、しっかりと分析することから始めることをお勧めしました。

本年最初となる今回は、現在の厳しい経済環境を背景とした消費の縮小傾向に対する、企業のマーケティング・スタンスについて考えてみたいと思います。



◆今、お客様は急速に変化している

この環境のもと、お客様の消費・購買に対する意識や態度が急速に変化していることは、言うまでもありません。

報道で、またはお仕事の場面でご存知のとおり、個人であれ会社であれ、節約・コスト削減に努めています。不必要な支出を洗い出し、無駄を省こうとするほか、すでに決定済みの大型消費や投資も可能なものは延期、必要なものですら、精選して購入という行動になっています。

また、買うときには、今までにも増して、本当に必要なものをよく見極めると言われます。

引き締めるべきところを引き締め、経営基盤を効率化、筋肉質な経営体質にしていくことは着手済みだと思います。事業活動でも、プロモーション・コストの縮小なども、視野に入っているでしょう。バリュー・チェーンと言われますが、バリュー＝価値を生み出していない工程を抜本的に見直すことも求められます。

その一方で、お客様との関係維持のための努力も必要です。お客様との関係は事業活動の源泉、途切れさせるわけには行きません。

そう考えると、この環境下でのマーケティングの課題は「お客様との関係性の維持」、そして、そのためには「本当に必要だ」とお客様に思っただけの商品・サービスを生み出すことではないでしょうか。

◆本質的な価値の具現化

だからと言って、足しげくお客様のもとに通い、既存商品を廉価販売するなど、「できるだけする」という会社都合な施策では不十分。関係維持にはつながりません。なぜなら、それはお客様が求めていることではないからです。

手を出しやすい価格に加え、本質的な価値を作り出すことが必要です。何かサービスのものを付けるという意味での付加価値ではなく、新しい本質的な価値の具現化。これが今、取り組むべきことです。

お客様に求められていることを具現化するためには「深さ」がキーワードとなります。例えば、お客様に何が欲しいかと尋ねても、答えは表面的なもの。通り一遍な聞き方だけでは、真のニーズを探り当てることはできません。また、売れている商品の真似をするような表面的な対応も同様です。

◆目指すべきは、お客様に。

お客様は「本当に必要なもの」以外のものを買うお財布をお持ちではないようです。お客様だけが知っている「本当に必要なもの」。社内だけで考え悩むよりも「お客様に聞きながらブラッシュアップ」して、適切なものをスピーディにリリースすることが肝要です。

【今月のチェック・ポイント】

マーケティング・スタンスは決まっていますか。



【マーケティングの処方箋】

「お客様との関係の維持」に取り組みましょう。

- ①テーマは、「本当に必要なもの」を作り出すこと
- ②具現化すべきは、付加価値ではなく「本質的価値」
- ③提供価値としては、広さではなく「深さ」
- ④開発姿勢は、「聞きながらブラッシュアップ」
- ⑤価値観は、会社都合ではなく「お客様都合」
- ⑥行動指針は、「スピード重視」。

☆筆者紹介☆

中島 秋津子

(Atsuko NAKASHIMA)

分析レポート、事業プランニング、社員研修・講義など、マーケティングの観点から事業サポート・サービスを提供するSTUDIO K.(スタジオK)代表。



女性起業家の声

鹿児島的女性起業家の方々に、起業家としての思いや抱負などを女性の視点でお話いただくコーナーです。

「おんな維新」！？

およそ、10年位前でしょうか。ふと気になった新聞記事!!

「おんな維新」に参加してみませんか?どなたでも参加自由。さつま女性起業家塾主催のイベント案内の記事でした。

「おんな維新」とはなんぞやと興味津津。

当時、私は会社勤め、夫は温泉を経営し始めたばかりでした。私自身、直接事業はしていなかったものの、やはり、女性起業家塾というものが気になって仕方ありませんでした。

思い切って参加してみました。

結果として、参加して良かった。これが、「さつま女性起業家塾」への入会のきっかけになりました。

イベント当日は、女性が起業するまでの苦労話から成功?するまでの体験発表が主な内容だったと思います。それと、会の進行から、この会を起すまでのスタッフの努力等々、見て、聴いて、「魅力のある会だな」と感動した事が今でも思い起こされます。

達成感が支え

毎月の例会にも、心ウキウキして出席していたところに、私は、地方への転勤を命じられました。それも単身赴任しなければならない場所でした。

定年まで残り4年。初めての単身赴任という事と、夫の温泉経営も気になる。退職した方が良いのか少し迷ったものの、定年まで勤めたという達成感を味わう為にもと思い、家族で話し合い、結局地方への転勤を選択しました。

現在は、退職して、約4年経ちました。今思えば、その事が、良い選択だったとつくづく思います。自分の心の中は、満足感でいっぱいです。この達成感、満足感というものが、日常生活や、事業を成し遂げる上にも、目には見えなくとも、きっと大きな支えになっていると思っています。

転勤と同時に約3年間、塾の例会への出席もできずにいたものの、気になり、再加入して現在に至っています。

塾での学び

この塾の特徴は、異業種経営者でありながら、毎月の例会では、その月の担当者が責任をもって勉強会を実施している事、自分自身で講演をしたり、外から講師を招いたり、バラエティーに富んだ勉強ができる事です。

お互いが、賢くなったり、元気をいただいたりして、

塾との出会いそして自分づくり



＜重富温泉＞

自分の事業に活かしていると思います。

私も、定年退職し、本格的に温泉経営に携わるようになっていきます。勤めの頃とは、違った喜びと充実感でいっぱいです。なぜなら、以前から、退職しても社会との関わりは持ち続けたいという希望があったからです。

現在は、商工会女性部長として、いろいろな活動と体験と勉強をさせていただいています。どんなに、少人数であろうと、部長という名をいただき、行動する上で、人を同じ方へ向かせるむづかしさをまず勉強しました。

でも、この事も悪い事ばかりではありません。

人の心のあたたかさに触れる事もあります。また、1年に1回開催される「商工会女性主張者発表大会」では、鹿児島県代表として、福岡県で開催された九州大会で発表したものの、惜しくも九州代表には選ばれず、全国大会には出場できませんでしたが、これこそ大きな体験になりました。

これも、塾での学びが身についたからでしょうか。

目指す生き方

サービス業が私共の仕事です。お客さまへの感謝の気持ちを忘れずに、そして、より良い社会活動続ける為には、自分が心豊かで、健康である事が必要であると思います。

仲間づくりと健康づくりにとって始めたフラダンス。フラダンスでのボランティア活動や発表会等、もうすっかり生活の一部になっています。

今後は、自分の存在で、周りの人達に明るさと、幸せを感じてもらえる、そんな生き方を目指したいと思っています。

☆筆者紹介☆

菊川 ミネ子

(Mineko KIKUKAWA)

重富温泉 代表

さつま女性起業家塾会員



IT活用戦略

株式会社イーデザイン

代表取締役 早川 孝一

〒890-0082 鹿児島市紫原3-34-23

TEL : 099-251-9821

URL : <http://www.e-design.jp/>

Mail : hayakawa@e-design.co.jp

情報は整理してはいけない

これまで、少しずつ「情報デザイン」という、少々分かりにくい事をお話ししてきました。今回は更に踏み込んだところをお話しします。

今回のタイトルは「情報は整理してはいけない」というものです。多くの方が驚かれる事だろうと思います。日常の業務のほとんどがコンピューターで処理されるようになってきている現代において、なぜにこのような事を私が申し上げるのか、いや、もっと強く、警鐘を鳴らしたいと思っています。

日々変化している

皆さんは自社の売上の動向や予測をどのようなデーターを使って行っていますか？毎月決まった形式の帳票で判断していませんか？

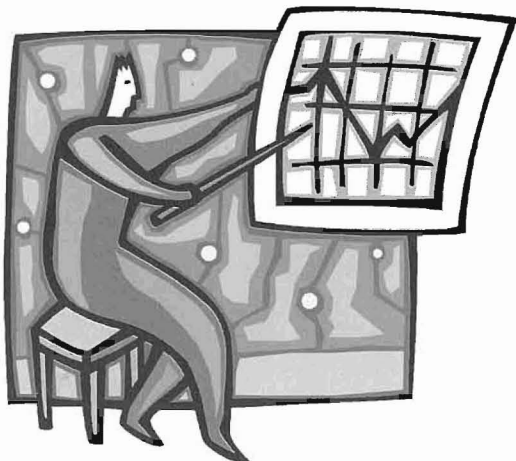
麻生総理の発言により、ある意味世間に知れ渡った、「百年に一度の未曾有の災害」が私たちの経済をひっ迫させています。今回の連載を執筆するにあたり、最初は少々控えめに書きました。しかし、日を迫うごとに状況が悪くなってきています。

そうです。世間は、周囲は変化しているのです。世界のトヨタやソニーでさえ、業績を大きく下方修正しなければならないほど、今や安定した企業というところは皆無に近くなってきているのではないのでしょうか。米国の次期大統領であるバラク・オバマ氏（執筆時点）が「Change」というキーワードを連呼しました。世の中が変わってきている今の時代に、今まで使っていたデーターで事業を持続する事が可能でしょうか。

即時適応が必要

中小企業にとって、この変化の波に確実に乗っていかれるかどうか、事業の持続可能性を高める事につながります。旧態依然とした、いわば、箱の中でずっと「耐える」事は、今の情勢では逆にリスクを高めてしまいます。かといって、残念な事に中小企業の規模では、日本や世界の情勢を変える事はできません。

では、どうすればいいのでしょうか。



朝令暮改、カメレオン、どんな事を言われようと、変化している情勢に即時適応していくフットワークが必要です。今までの定型フォームに出力されたデーターは、変化の様子や方向性を見せる事はできません。今、必要な情報を、即時に抜き出し、必要であれば複数のデーターを組み合わせる事で情勢にあった動きが取れるのではないのでしょうか。

私はいたずらに危機感をあおろうとは思っていません。

私たちのような中小企業にとって、危機感は常に大切なものですが、あまりに危機感が募ると、不安に変わってしまい、生き残りをかけたこれからの不況に立ち向かう事はできないと思っています。逆に適度な危機感は、事業を継続させ、大きく成長させないまでも、業績を上向ける事が可能になります。



情報は貯めておく

では、どのような事をすれば、上述のような事が可能になるのでしょうか。それは、「情報を定型に当てはめない事」です。柔軟な思考の下にデーターを取り出し、分析するのです。つまり、「情報を整理しない事」によって、変幻自在な情勢に適応可能な事業展開が可能になるのです。

昨今のコンピュータの高機能化はめざましいものがあります。以前はハードディスクの容量もさほど小さくなく、データーを整理して格納する必要がありました。分かりやすい事例として、例えば「得意先名」。全角32文字と決められていて、それを超える文字数の得意先名は工夫しないと登録できないといった事が以前はありました。現在のシステムでも、それに類する事はいまだに存在しますが、システムの構築次第では撤廃する事も可能になってきています。あるいは、得意先に関する情報は、マスターという縛りの中で予め決められていましたが、これもシステムの工夫で柔軟性を持たせる事ができます。



これからの時代において、情報はあえて分類したり、加工しないでストレージ（データーの格納場所）に貯め置く事が肝要です。そして、最も大切な事は、ストレージの中にあるデーターを取り出す際に、「検索」という方法を用いる事です。

今までのシステムでも検索できたと反論される方がいらっしゃるかもしれませんが、確かに、以前のシステムでも検索機能はありました。しかしながら、私が提唱している「検索」は、「今必要な情報は、どうやれば取り出す事ができるのだろうか」という思考の下に実行する「行動」です。予め決められた検索方法（クエリー）では取り出せない情報が、今は非常に多いのです。

もう一つの工夫があります。前回のお話の中で、情報を貯め置くには、予め分析を予測しておくという事を申し上げました。この貯め方は、「付箋紙」を想起していただければ分かりやすいかと思います。情報に対する、この「付箋紙」のようなものを「タグ」といいます。タグ付けをしておけば、タグで絞り込む事で膨大な情報を絞り込む事ができます。あるいは、タ

グの度合いで、どのような情報が多く集まっているか、あるいは必要とされているかなど視覚的に表示する事もできます。情報の「見える化」とまでは言い過ぎかもしれませんが、非常に有用な手法です。

このタグを使った情報活用については、次回詳しくお話しをします。

いまだ底の见えない景況感に追い打ちをかけるように、日銀の短観が発表されました。しかし、よくよく短観の内容を見てみると、中小企業よりも大企業の業績悪化が懸念されています。情報とは取り方次第で変わってきます。大企業では、様々なコストダウン、コストカットを行なってきて、現在の状況では、雇用を減らすしか方法がないのかもしれませんが、しかしながら、私たち中小企業は生き残る事ができる可能性がある事を、短観は示唆しています。

大変な時代になってきましたが、散在する情報を有用なものに再集積して、私たちの底力を発揮するべき時代になったと感ずれば、景気の後退局面でも業績を伸ばす事ができるかもしれません。

そういった意味では、今回の世界同時金融不安の発信源である米国の次期大統領が「Yes, we can.」と言って民衆の期待感を向上させたように、私たちなら、「できる」事が実は多くあることを気付きたいと思います。

☆筆者紹介☆

早川 孝一 (Koichi HAYAKAWA)

株式会社イーデザイン 代表取締役社長

1999年 有限会社イーデザイン設立

2001年 株式会社に改組 同 代表取締役社長 就任

「情報デザイン」手法を用いたICTコンサルティングを行う。



食の安心・安全の確保について (第4回)

鹿児島県水産振興課 Tel 099-286-3435

このコーナーでは、食の安心・安全を確保するための鹿児島県の取組を紹介いたします。

第4回目は、「かごしまのさかな」ブランド認定について紹介します。

「かごしまのさかな」 ブランド認定

本県の基幹漁業である養殖業の経営安定化対策の一環として、本県で生産出荷され、安定供給を行っている養殖ブリ・カンパチで、品質等が優れ市場や消費者等のニーズに応えるとともに、県内他産地のモデルとなるようなものを「かごしまのさかな」に認定しています。

審査は、水産団体、流通関係者、消費者代表等で構成される「かごしまのさかなづくり推進協議会」（平成15年度創設）によって行われ、以下のような「安心・安全」や「市場や消費者等へのアピール」等の基準により認定されます。

1 認定基準

- ・養殖生産履歴を作成し、消費者からの情報の求めに対しては公開できるシステムが構築されていること。
- ・漁場改善計画が遵守されていること。
- ・県内生産者の模範となるべき先進的な取組みがなされていること。

2 ブランドマークの使用

認定を受けた申請者が取り扱う生産物について、ブランドマークを使用することができます。



【ブランド認定マーク】

3 認定状況

「養殖ブリ」は平成16年2月に東町漁協と福山養殖で認定され、現在まで4団体、「養殖カンパチ」は平成16年7月に垂水市漁協で認定され、現在まで5団体で認定されております。



【各団体の広報チラシ】

近年、水産業界におきましても、食品偽装問題により、消費者の不信感を招く事例が発生しています。

今後とも、安心・安全な「かごしまのさかな」をPRするとともに、生産から加工、販売にいたるまで、食の安心・安全を確保するための普及啓発や監視に努めて行きたいと考えています。

受発注情報

当センターでは、仕事を発注・受注したい企業の希望条件（設備・技術力等）に見合った取引の紹介あっせんを行っております。今月は、下記の企業から受注の申し込みがきておりますので、あっせんの御希望がありましたら御連絡ください。

また、センターのホームページでも御覧いただけます。（URL：<http://www.kric.or.jp>）

◆受注情報

No.	所在地	資本金 (万円)	従業員数 (人)	受注希望品目 (加工内容)	主要機械設備
1	霧島市	300	6	電子部品等の組立 各種検査業務	電動ドライバー 半田設備一式

◆お問い合わせ先 (財)かごしま産業支援センター ビジネス支援課

TEL:099-219-1274 FAX:099-219-1279

九州6県合同広域商談会（緊急広域商談会）を開催 ～盛会裏に終了～

去る12月3日(水)、ホテルグランヴィア大阪(大阪市)において、九州6県支援センター(佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島)及び(財)全国中小企業取引振興協会の共催により、「九州6県合同広域商談会(緊急広域商談会)」が開催されました。

●参加企業数

区 分	会社数	参加人数
発注企業	48社	87名
受注企業	125社	184名
合 計	173社	271名



<商談会 風景>

当日は、1面談あたり20分という短時間ではありましたが、各面談においては、受注企業の方が加工サンプルや会社パンフレットを基に積極的な会社PRを行っていました。

その結果、さっそく図面による商談や見積依頼につながるなど、今後の営業活動に大きな期待が持てる商談会になりました。また、商談会終了後に開催した交流懇談会には、受・発注企業100社(148名)の方々が参加されました。この懇談会は、面談できなかった発注企業との名刺交換の場、面談した企業と更に交流を深める場、また、受注企業同士のネットワーク作りの場として活用していただくことを目的に開催しているもので、今回も盛会裏に終了することができました。



<製品展示 風景>



<交流懇談会 風景>

鹿児島県人材育成センターの利用の御案内

当センター出先機関の鹿児島県人材育成センターでは、企業の在職技術者など人材育成の支援を主たる目的として、各種の講座・研修を実施しているほか、企業自らが企画する会議・研修・講演などの会場として、低廉な使用料で利用していただいております。皆様の参加及び御利用をお待ちしております。

自主講座：食品加工・機械加工・QC手法・ISO関係など29講座を実施
施設利用：150人収容の大研修室のほか大小6室を低廉な使用料で提供
(詳しくは、下記までお問合せください)

所在地：霧島市国分中央3-44-36

■問合せ先■ (財) かがしま産業支援センター 鹿児島県人材育成センター
〒899-4332 霧島市国分中央3-44-36
TEL：0995-47-3090 FAX：0995-46-4413 E-mail：jinzaic7@po.kric.or.jp

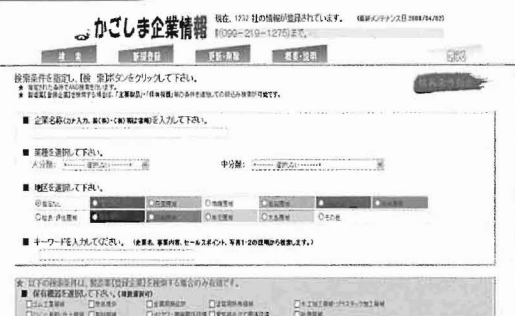


「かがしま企業情報」への掲載の御案内

当センターでは、県内中小企業の情報発信の充実と検索等の利便性を図ることを目的に、当センターのホームページ上に「かがしま企業情報」を構築し、掲載企業の募集をしています。

インターネットを使用しての登録・更新が可能で、登録企業側の操作もしやすくなっています。

一社でも多くの企業が掲載していただければビジネスチャンスの拡大に繋がることが期待されます。掲載料は無料ですので、お気軽に御登録ください。



■問合せ先■ (財) かがしま産業支援センター 情報支援課
〒892-0821 鹿児島市名山町9番1号 鹿児島県産業会館2階
TEL：099-219-1275 FAX：099-219-1279 E-mail：info@po.kric.or.jp

メール配信サービス「KISCNEWS」の御案内

当センターでは、イベントや研修など各種のお役立ち情報をEメールで無料配信するサービスを行っております。配信を希望される方(機関または個人)は、次の当センターホームページからお申し込みください。
(お申込み先URL：http://www.kric.or.jp/publication/kiscnews/top.htm)

■問合せ先■ (財) かがしま産業支援センター 情報支援課
〒892-0821 鹿児島市名山町9番1号 鹿児島県産業会館2階
TEL：099-219-1275 FAX：099-219-1279 E-mail：kiscnews@po.kric.or.jp



■「情報KISC」の表紙デザインについて■

表紙のデザインは、「かがしまデザインフェア2008」の「KISCデザイン部門」に応募された総数147点の中から優秀賞を受賞されました 久保 翔太 さんの作品です。

～作品のテーマは「紆余曲折」～

(久保さんののはなし)

「起点(Origin)から様々な道のりを辿り、試行錯誤しながら前へ進んでいく」というコンセプトを元に、様々な可能性や混沌、希望を内包しました。起点からほとばしって躍動するオレンジの矢印とその軌跡が不明瞭なグレーの世界をひた走る様子は、可能性の模索とその葛藤を表しています。

この作品を通して、枠にとらわれた試行錯誤ではなく、枠を飛び越えた、広い視野での模索が必要だと感じました。

情報KISC 1月号

発行者：財団法人かがしま産業支援センター

〒892-0821 鹿児島市名山町9-1 鹿児島県産業会館2F

TEL 099-219-1270 (代表)

FAX 099-219-1279

E-mail kisc@po.kric.or.jp

URL http://www.kric.or.jp